

「純銀製三つ足片口鉢」 酒を注ぐと魚が泳ぐ。器の底に接合された魚を置き、表面は金鍍で叩き均した跡の鍍目を残して研磨し、純銀の柔らかな光沢を出しました。



「純銀製馬上杯」 砂打ちして艶を消した手絞りの胴部に、透かしと座の形を桜にした脚部を接合した馬上杯。高台に桜をあしらうことで銀器のシャープさに優しさを加味しました。



「菊根付」 手鞠をモチーフに透かしを施し、^{やすり}鍍で凹凸をつけた銀製菊割の根付。蝶番で開閉できます。中には水晶が仕込んであり、水が入っているように見えます。蝶番を外して水晶を取り出し、代わりに好みの石を入れることもできます。



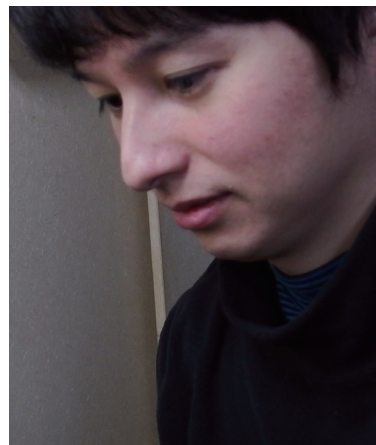
近藤 純太

2005年京都伝統工芸専門学校（現 京都伝統工芸大学）卒業。京都で金属工芸を修業。2011年に独立。2012年高島屋京都コレクションショップ出展。2013年「京もの認定工芸士」認定。

京都伝統工芸専門学校（現 京都伝統工芸大学）で金属工芸を専攻、卒業後も京都で約6年間、金属工芸の修業に励んで独立。現在は自身の工房で酒器・香道具・和装小物・装飾品を中心に制作しています。日本の伝統的な文様をモチーフにしながら、現代の生活に合うよう手に取りやすいデザインと扱いやすさを心がけています。金属の性質を最大限に生かす伝統技法・鍛金を用い、手絞りによる立体的な造形と繊細な手づくり感を大切に創作活動を続けています。

金工の伝統技法を駆使し 現代にマッチした創作を

京もの認定工芸士 第82号



◆京もの認定工芸士とは…
京都の伝統工芸品（京もの）の製造に従事し、特に優れた技術をもった意欲ある若手職人に京都市知事から授与される称号。

こんどう じゅんた
近藤 純太